

十月例会 御案内

〔平成三十年・通算第六八九回〕

公益財団法人 協和協会

○ 御案内

十月二十四日(水)十一時半入館可、正午〜午後二時半 参議院議員会館地下一階B一〇二会議室

講師 認知症になる仕組みとその対策について!

講題 河村弘庸先生(医学博士、脳神経外科医、元東京女子医科大学脳神経外科教授)
さて、現代において「認知症」が大きな社会問題となっており、例えば、高齢ドライバーによる認知症が原因とみられる暴走や逆走など何人もの人を殺傷する事件が多発し、国民も自分自身がそうした事故に巻き込まれるか分からない、という不安があり、社会問題化しています。そこで、今回は、脳神経外科として脳の仕組みの研究が御専門の河村弘庸先生にお越しいただきます。脳の仕組みの分析から、認知症はどのようにして起こるのか、どうすれば認知症にならないのですか、もし認知症を発症した場合には、どう対処すればよいのか等々について、御解説をいただきます。

河村弘庸先生は、分かり易く御解説下さることで有名です。皆様の御参考となると幸いですので、どうぞ、奮って、御参加下さいますよう、お待ち申し上げます。(清原記)

□ 当日会費(昼食付き) 会員は三千元、非会員五千元。

公益財団法人 協和協会

http://www.kyowakyokai.or.jp

十月二十四日(水)の月例会に

電話 03-3581-1192
FAX 03-3507-8587

出席 欠席 (いずれかに〇印を)

御芳名

当日連絡先

080-8836-6203 重田

貴方様のFAX

080-9292-2620 高津

メール

(メール不可・通話のみ)

▽十月二十二日(月)までに出席の御連絡賜りたく。

◎ 御報告

日本は、緯度からして、春夏秋冬の四季があつて風光明媚、住みやすい気候のよい国という認識があつた。しかし、近年はおかしい。夏の気温が連日三五度前後、所により四〇度にもなつて亜熱帯化している。それに局地集中豪雨で、山崩れ、土石流、氾濫など大きな被害が出ている。そうした国民の不安感から、今回は、中川雅治環境大臣の御紹介を得て、環境問題全般の研究後として知られる南川秀樹元環境事務次官様にお越しをいただき、『地球温暖化対策の経過と今後の対策について!』と題し、御講話をいただくことにいたしました。

冒頭御挨拶をいただいた。その要旨は、今夏は自然大災害が頻発して大きな被害も出たので、環境省も全力で対策に当たった。また国際社会でも、地球温暖化対策でリードすべく努力した。また近年問題の海洋プラスチック問題も研究を重ね、来年、日本で行われるG20で提起したい。中川雅治環境大臣を拍手でお送りしたあと、南川秀樹元環境事務次官の御講話に入った。その概要を記すと、まず、今年の異常な猛暑は、気象庁が言うように「地球温暖化に伴う水蒸気量の増加が原因」だが、しかも地球規模で、北極はじめ南極やグリーンランドの氷は解けている反面、各大陸では四十度を越す高温で山火事が多発しているとし、その凶表を示し説明された。

・南川先生はそのあと、日本での環境問題、例えば、足尾銅山や愛媛別子銅山や日立鉾山の鉍毒・煙害、更には熊本県下のチッソ工場からのメチル水銀化合物による水俣病障害も説明された。

・続いて、2015年にパリで採択された温室効果ガス排出削減のための国際新枠組みの意義の解説、それに対するトランプ大統領の脱退宣言問題。次いで、日本の再生可能エネルギー設備容量の推移、温室効果ガス大幅削減のための方向性まで示され、大層勉強になりました。(清原記)

▽ 当「公益財団法人 協和協会」とは

昭和四十九年、岸信介元総理によって創立された財団。活動趣旨は、「政党・派閥・利害・打算の次元を超えて、真に国家的課題を研究調査し、特に重要課題は、政府宛要請書を作つて、時の政府へ提出する」ことにある。昭和五十四年から本格活動に入り、月例講話会のほかに、八つの部会と、五〇六の委員会があり、これまでに百三十七本の要請書を時の政府に提出している。第二代会長は福田赳夫元総理、第三代会長は櫻内義雄元衆議院議長、第四代会長は塩川正十郎元財務大臣、第五代会長代行として、江口一雄元衆議院議員、現在、第六代は代表理事兼会長代行として、岸信夫衆議院議員・元外務副大臣・前議院運営委員会理事が就任している。

▽ 事務局電話(03)

3581-1192

代表理事兼専務理事・清原淳平、総務 重田、高津